

白山ミュージアム



白山市立博物館
特別展 **白山への道**
～白山下山仏と禅定道～

千代女の里俳句館
企画展 **西のぼるが描く
美のかたち**

松任中川一政記念美術館
特別展 **生誕130年中川一政展**
百花繚乱 - 芸術の魅力とその生き方 -

石川ルーツ交流館
企画展 **小説と私**
～作家 三田薫子展～

呉竹文庫
企画展 **島田清次郎と
その時代**

鳥越一向一揆歴史館
企画展 **一紙半銭の戦い**
(愛山護法の戦い)

白山恐竜パーク白峰
企画展 **最新！古生物学展**
～白山市の化石を例に～

「いつしか百万石文化祭2023」
白山ミュージアム
サーキット・
サーキットPlus開催

「第38回国民文化祭 第23回
全国障害者芸術・文化祭」で
ある「いつしか百万石文化祭
2023」白山市地域文化発
信事業として、「白山ミュージ
アムサーキット」と題し、千
代女の里俳句館、松任中川一
政記念美術館、白山市立博物
館が合同で展覧会を開催しま
した。チケットを会期中有効
の共通券とすることで回遊性
を高め、三館、それぞれ特徴
ある展覧会を実施することで
観覧者への異なる文化体験を
提案しました。また石川ルー
ツ交流館、呉竹文庫、鳥越一向
一揆歴史館、白山恐竜パーク
白峰では白山ミュージアムサー
キットPlusとして、それ
ぞれ企画展を開催しました。
(関連ページ2～6・8・9ページ)

contents

- 白山ミュージアムサーキット・
サーキットPlus開催 1
- 最新 古生物学展-白山市の化石を例に- .. 2
- 白山ミュージアムサーキット
 - 白山への道～白山下山仏と禅定道～ 3
 - 生誕130年 中川一政展 百花繚乱
- 芸術の魅力とその生き方 - 4
- 西のぼるが描く 美のかたち 6
- 「百姓ノモチタル国ノヤウ」(実悟記) 7
- 美川出身の二人の作家 8
- 令和6年度 前期行事予定 10
- 令和6年度 展示・行事予定 12



白山恐竜パーク白峰 企画展 最新！古生物学展

― 白山市の化石を例に ―

会期 令和五年十月十四日～十一月二十三日

令和五年度の国民文化祭は、「いしかわ百万石文化祭2023」として開催されました。この関連イベントとして、白山恐竜パーク白峰でも、十月から十一月にかけて企画展を開催することとなりました。

テーマは、古生物学の分野で近年トレンドとなっている「三次元データの活用」に関するものです。3D技術というと、最近では様々な分野で利活用が進んでいますが、学術の世界も例外ではありません。化石の研究においても、X線CT装置や3Dスキャナーなどといった化石の形状を三次元データ化できる機器の利用が進んでいます。特にX線CT装置は、化石そのものや母岩（化石の周りの岩石）が残っている化石の分析にと

ても有効です。というのも、物理的なクリーニング（岩石を取り除くこと）なしに化石の形状を把握することができるからです。

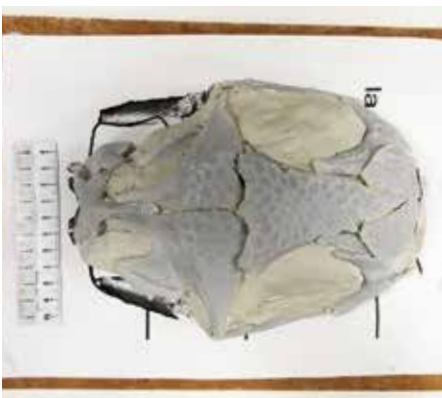
白山市桑島にある桑島化石壁で見つかった化石の研究にも、近年、CTスキャンが多数実施されており、特にシラーペトン・イサジイの研究における活用事例は、これまでの化石研究の常識を覆すものでした。従来、化石の形態的な特徴を観察するには、化石の実物そのものを見なければいけなかったのですが、シラーペトンの骨のパーツはそれぞれがとつともなく小さかったため、物理的に化石のみを取り出し、観察することは困難でした。こうしたことから、CTスキャンを活用した研究が検討

されます。骨それぞれの形状を三次元データ化することで、骨の形態的な特徴を仮想的な空間で抽出しようとしたのです。この試みは成功し、デジタルデータのみで新種ということとを突き止めることができました。こうした、実際の化石を用いずに、PC上のデジタルデータのみで新種記載した研究はこれまでになく、画期的と言えます。今回の企画展では、この先進的な研究事例を紹介するため、実物の化石標本とともに、3Dプリンタで二十倍に拡大出力し組み上げた樹脂製の頭骨レプリカを展示しました。この二つを比較してもらうことで、いかにこの最先端の技術が古生物学的研究に有効かを知っていただける良い機会になったのではないのでしょうか。

シラーペトンの他にも、3Dプリンタで作製した八点の樹脂製レプリカとその実物標本を展示しました。また、今回は三次元データそのもの

も、ノートパソコンや映像を使って展示してみました。ノートパソコンを利用した展示では、観覧車が実際にマウスを動かして、化石を三六〇度ぐるぐると動かすことができるようにしました。実物はとても貴重で、その上、とても小さいので、通常は一般の人がじっくり観察するということはできないのですが、デジタル三次元化したものをパソコンに投影することで、多くの人が細かなところまで観察することが可能です。これも、三次元データ化のひとつの利点であると言えます。

（白峰化石調査センター 大塚）



シラーペトン・イサジイの頭骨復元

白山ミュージアムサーキット
 白山市立博物館 特別展

白山への道 ~白山下山仏と禅定道~

会期 令和五年十月七日~十一月十九日

「いしかわ百万石文化祭2023」

地域文化発信事業として白山市立博物館では特別展「白山への道ー白山下山仏と禅定道ー」を開催しました。

今回の展示では、白山下山仏をはじめとする白山の神仏分離と白山禅定道を中心に白山曼茶羅など白山信仰の文化財を紹介しました。

白山下山仏とは、明治七年(一八七四)、白山嶺上や禅定道等に安置されていた仏像・仏具等が下山させられ、林西寺(白山市白峰)と尾添区に安置されることになった仏像群のことをいいます。同年七月、白山嶺上三社をはじめ、末社等の仏像等は一ノ瀬温泉まで下山し、その後、林西寺へ移されました。また檜新宮に安置されたいいた仏像等は尾添

村に安置されることになりました。

このときの下山処理については「白山下山仏一件」(金劔宮所蔵)等に詳細に記録され、その経緯を知ることができます。

また白山の世界観を描いた白山曼茶羅も紹介しました。白山曼茶羅には参詣曼茶羅と垂迹曼茶羅があり、参詣曼茶羅では「絹本着色 白山曼茶羅図」(能美市蔵・石川県指定文化財)がよく知られています。参詣

跡が書き込まれ絵解きなどに使用されていたと考えられます。今回は、「紙本白描 白山曼茶羅図」(那谷寺所蔵)や「紙本 白山加賀禅定道図」(個人蔵・白山市指定文化財)等もあわせて展示しました。このほか白

山曼茶羅には神仏を中心に描いた垂迹曼茶羅があり、加賀系・越前系・美濃系があります。このうち越前系では石川県立歴史博物館所蔵「絹本着色 白山曼茶羅図」などを展示しました。

江戸時代、白山には多くの参詣者が訪れており、「白山禅定日記」(石川県立歴史博物館蔵)等、たくさん

の地誌や紀行文が記されました。その中には山頂までの道筋、名所や伝説、参拝した本地仏や堂舎の様子等を詳しく記録したものがあり、今では失われてしまった祠堂や仏像の姿を彷彿とさせる貴重な記録となっています。

白山山頂付近以外では白山比咩神社における神仏分離が知られていま

す。本展示では白山本地堂のゆくえを中心に展示しました。慶応四年(二八六八)、神仏判然令が發布されると、白山本宮(白山比咩神社)では、すみやかに神仏分離が実行に移

されます。明治二年(一八六九)には白山本地堂が取り払われることとなり、これにともない白山本地堂内の神体類は本社へ移すよう命ぜられます。その後、白山本地堂は木津村白山社へ譲り渡されましたが、移築された建物は守郷白山神社拝殿として現在も利用されています。今回、金沢工業大学 山崎幹泰教授、上野孝典氏の協力を得て建築の視点からも白山本地堂を紹介しました。

(白山市立博物館 村上)



白山ミュージアムサーキット
松任中川一政記念美術館 特別展
生誕百三十年 中川一政展 百花繚乱
— 芸術の魅力とその生き方 —

中川一政と展覧会概要

中川一政（一八九三—一九九一、文化勲章受章者・白山市名誉市民）は、父が金沢市、母が白山市出身であり、石川県にゆかりが深い芸術家です。明治中期に東京に生まれ育ち、大正期に独学で画家を志し、昭和を経て平成の時代まで生き抜きました。その仕事は、絵画だけにとどまらず、書や陶芸、挿画や装丁、また短歌や詩、随筆など文芸にも及びます。幅広い創作活動のいずれにも一境地を拓いた足跡は、近現代画壇でも際立った存在感を放ち、その芸術はまさに「百花繚乱」と言えます。

生誕百三十年を記念して開催した本展では、诗情豊かな初期作から独

自の画法を模索する中期作、そして

自得し花開いた円熟期作から自分に

限界を定めず生み出し続けた晩年作

までの作品や関連資料七十八点を編

年式に展覧し、画業の変遷や創作姿

勢、また多彩な芸術の魅力に迫りま

した。

九十年も生きていたといろんな

事をしている。短歌・詩・随筆・画・

書・篆刻・陶器いろんな方面に及

ぶ。（中略）

自分は決めないのである自分を。

自分がどれだけ生きるか、どれ

だけ力があるか出して見なければ

わからない。

とにかく私は一所懸命になれる

仕事にめぐりあえた。（中略）

中国の本を読んでいたら百歳まで生きようと思ったら、九十歳を半分だと思えと書いてあった。あの十年はそれ程密度があるのだ。一所懸命が一生懸命になれたら本望でしょう。（1）

作品だけでなく、こうした一政自身の言葉は、彼にとって生きることと創作が同義であることを示しています。九十七歳の生涯を現役で全うした生き様は、人生百年時代を生きる私たちの道標になるかもしれません。

「あさがお」モチーフ

「百花繚乱」のタイトルは、前述のとおり中川の広範多岐にわたる創作活動を象徴するものですが、同時に「薔薇」や「向日葵」など花を題材にした作品を数多く生み出した画家像をも浮かび上がらせます。本展においても、一九六〇年代から九〇

年にかけてのそうした花作品十一点を展覧しました。

なかでも国民文化祭を彩る作品として、ここで注目したいのが「あさがお」のモチーフです。「あさがお」は、加賀の千代女も慈しみ、今も市民に親しまれる白山市の花です。

一方、薔薇や向日葵以外にも、椿やチューリップ、鉄線や百合など季節に応じた様々な花を描いている一政に、あさがおを描いた作品は多くありません。そうしたなか本展において本年初公開したのが「あさがお」（一九七二年 廣澤美術館蔵／図1）と「芭蕉屏風」（一九三五年 個人



図1 「あさがお」1971年 廣澤美術館蔵

蔵／図2)です。

前者は、墨を引いた背景に愛用の磁州壺に生けた赤と青のあさがおが鮮やかに浮かび上がります。赤い花だけでなく、向かって左の後ろを向く青い一輪も、花のありのままの姿として見るものの視線を引き、そのまま画面世界の奥へと誘うようです。

後者は、芭蕉の句から着想した扇面画十六面を貼り交ぜた「芭蕉屏風」で、その一面が「朝顔に我は飯食う男哉」を題材にし、あさがおが描かれています。敢えて墨で表現した葉の奥から垣間見える着色された花は、朝露を纏うような瑞々しさを感じさせます。一政四十代の筆で、中央



図2 「芭蕉屏風」(部分) 1935年 個人蔵

に佇む男の風情は、当時取り組んでいた新聞連載小説・尾崎士郎「人生劇場」の挿画を思い起こさせます。

本展で紹介した作品以外では「朝顔とんぼ」(詳細未詳)、「マジヨリカ壺の朝顔」(一九七一年頃 図3)、「同」(七三年 図4)の三点が過去の展覧会カタログや画集で確認^②でき、何れも墨彩作品です。

「春陽会」と一政の墨彩

折しも本展が開催された二〇二三年は、一政が創立会員として参画し、軸足を置いて活動した「春陽会」(一九二二年発足)の第一回展(二三年)開催から百年目の年です。春陽会の草創期の特徴の一つに、東洋に根差した洋画への志向があります。当初から「水墨・素描室」が設置され、これらが油絵と並んで展示されました。その後も挿絵室(二七年 第五回展)や版画室(二八年 第六回展)が設置されるなど、様々な表現を認め



右) 図3 「マジヨリカ壺の朝顔」1971年頃
左) 図4 「マジヨリカ壺の朝顔」1973年

合い各人の個性を尊重する姿勢も特徴です。

油絵を柱としていた一政も、こうした空氣のなか、時に画材を墨や岩絵具に替え表現しています。椿や百合は、油彩画と岩彩画の両方で描き分けていますが、あさがおの油彩画は確認できません。スケッチから描き起すのではなく、対象を目の前にして描く一政の制作スタイルにおいて、朝開いて間もなく萎むあさがおは、日本画の画材が相応しかったのでしょうか。

一政は「油絵と墨彩の相違はまづ第一にメデイウム^③である。油絵は芥子油とかひまし油を用ひ、墨彩は膠を用ひる。牡丹とか菖蒲をかくには油絵ではしつこくなる。膠で胡粉や岩絵具をつかつた方がいいうに思ふ。水墨はもつとさつぱりしている。」^④と記しています。

こうして墨彩が選ばれた「あさがお」作品は、油絵を思わせる一政独自の筆致の中にも、墨や岩絵具の質感により、花が纏う東洋的詩情が香ります。

(1) 『中川一政ブックワーク』序文 一九八四年 形象社／(2) 『朝顔とんぼ』『中川一政と白樺派展』一九九二年 青春白樺美術館(作品名のみ記載)、『マジヨリカ壺の朝顔』一九七一年頃『中川一政自選展』一九七二年 名古屋松坂屋、『同』一九七三年『中川一政水墨岩彩「花下志婦」』一九七九年 求龍堂／(3) ここでは、絵具を作る際に顔料と混ぜる溶剤や絵具素材を指す／(4) 『中川一政水墨・岩彩「門前小僧」』後記 一九七三年 求龍堂

(松任中川一政記念美術館 徳井)

白山ミュージアムサーキット

白山市立千代女の里俳句館 企画展

西のぼるが描く 美のかたち

会期 令和五年十月七日～十一月二十六日

西のぼる氏は、一九四六年珠洲市生まれ。一九七九年にさし絵画家として中央デビューし、早乙女貢、星新一、平岩弓枝、北方謙三、安部龍太郎ら著名作家の装画・さし絵を担当してきました。一方で、千代女への思い入れも強く、関連する作品を多数手掛けており、その大半が当館に寄贈されています。

本展では、はじめに、西氏による千代女関連作品を「西のぼるが描く千代女」と題して展示しました。中でも「吉崎紀行」と「越中井波瑞泉寺紀行絵巻」は、千代女が旅をした両地を、西氏が実際に訪れて描いた作品です。重厚かつ明るい独特の作風で、時に抽象的な西氏の作品の根底には、実体験も交えた綿密な取材・

研究に基づく考証があり、こうした真摯な姿勢が、歴史・時代小説の装画やさし絵の依頼が絶えない理由の一つだと思われます。

さて、本展のもう一つの柱は、西氏の近作でした。「美のかたち」「心のプリズム」と題したこれらの作品の共通のテーマは「見えないものを描く」です。西氏は、新型コロナウイルス感染症の流行による生活様式の変化の中で、身近な自然の営みを再認識し、「見えないものに生かされている」ということを強く感じたといいます。そこで、目に見えない自然の神秘、すなわち〈時間〉や〈大気〉をテーマとしました。鑑賞者には、作品を自由に解釈してほしいという西氏の思いを受けて、このテ

マはあえて明かしませんでした。自然が営む美のかたちが、多くの方に伝わったのではないかと感じています。

また、本展では、西氏による書き下ろしの随想文もご覧いただきました。さし絵画家として著名な西氏ですが、これまでにコラムやエッセイの執筆もされており、文筆家でもあります。西氏は、「絵では伝えきれないことがあります。言葉の力を大切にされています。西氏の手紙の体験や、日常の一場面から書かれた文章は、不思議と困難に直面したときに背中を押してくれる

ような温かさを感じました。

なお、会期半ばの十月二十一日には、西氏と同郷で、俳誌『風港』を通して交流がある俳人中川雅雪氏との対談を開催しました。西氏には、ふるさと珠洲に対する思いや創作への向き合い方などをお話しいただき、聴講した皆様からは、「内容に感銘を受けた」「(お二人の)人柄がよくわかり楽しかった」という感想をいただきました。

(千代女の里俳句館 横西)



鍵 (2021年)



見えないものにも生かされて (2020年)

「百姓ノモチタル国ノヤウ」(実悟記)

元龜元年(一五七〇)九月十二日、大坂本願寺に早鐘が鳴り響き、この日から十一年に亘る「石山合戦」が始まります。本願寺所在地に「石山」という地名はないと同教学研究所は指摘し、この織田信長と本願寺(一向一揆)との戦いを「大坂本願寺合戦」と呼びます。

化に反映し影響を与えたに違いありません。豪華絢爛「百万石文化」を副題とした国民文化祭に協賛する企画展開催の小さな理由です。

同時展の軍記『絵本石山軍記』は、江戸時代から明治にかけて、東西本願寺寺院で勸化本として使われたとい

います。同じ歴史と信仰を持つ御同行御同朋、本願寺門徒として確かめ合ったでしょう。村の指導者である地侍は大名に仕官する侍になり、あるいは一向一揆に参陣しています。戦国武将の多くはこの階層を出自と

しています。一向一揆が治める加賀を願得寺実悟は「百姓ノモチタル国ノヤウ」と述べます。『同軍記』に見られるように江戸期の人は鎧兜に身を固め鉄砲を放つ姿を「一向一揆」の姿と描

いています。兵農分離はまだなされていない時代のことです。企画展では、越前七山家一揆衆が天正五年(二五七七)暮れ、攻寄せた柴田義宣(勝家姉の子)を鉄砲で返り討ちにした史実も紹介します。同三年から六年にかけ信長の野望「加賀侵攻」に掣肘を加え野津又城籠城戦を戦った鳥田将監正房も紹介しました。一向一揆には多くの武将が参陣

します。加賀では組の旗本を始め、金沢城に名を残す平野甚右エ門は元信

長家臣、家康家臣本多正信らが知られます。越前では元朝倉義景家臣鳥田将監がいました。顕如は「野津又在城衆中へ」と消息を与え督戦します。

「…仍当山中之儀いまに相抱候て敵を支おりおりハ打出成其働由忠節無比類候然処兵糧払底二付

て迷惑由尤歎き入候此山中敵の手二入候ハ、加州までも大事候間…」顕如 花押

かくて「大坂本願寺合戦」は終焉を迎えます。
(鳥越一向一揆歴史館運営委員 西出)



下間頼龍、織田勢と大尔戦ふ図(『絵本石山軍記』石川県立図書館蔵)

美川町出身の二人の作家

いしかわ百万石文化祭では、県内で様々な催し、展覧会などが開催されました。

当館では、白山市美川地区出身の作家三田薫子さんの作品の展示と記念講演会を開催いたしました。

「女の手取川」

三田さんは、美川町で生まれ育ち、結婚後、子育てをしながら小説を書き始めました。

昭和五十七年十一月から翌年四月まで北陸中日新聞に連載された「泥の歌」を改題した『女の手取川』が、最初の書籍化された作品です。

ご自分のお母様をモデルに書かれた『緋は紅よりも』、『冬化粧』と三部作として描かれています。

小説には、主人公七代が生家から嫁ぎ、婚家での生活、家族が生き生

きと描かれています。舅・姑に献身的につくす母親に批判的で、自分は

絶対に母親の様にならないと決意する娘の竹子など、世の中の移り変わりも感じられます。

また実際に起こった昭和九年手取川の洪水での出来事、商店の様子など昔の美川町が描写され、当時の様子が窺えます。



「女の手取川」3部作表紙

「女人天華」

『女人天華』の作品は、鶴来の勤

王志士として有名な小川幸三の妻直子の生涯を描いた作品です。

三田さんの代表作として、白山開山千三百年記念に北國新聞月刊「アクタス」に一年間連載され、平成

二十九年に書籍が出版されました。旦那様が、鶴来町出身で、ぜひ描いてみたいと思っていた作品とお聞きしました。

「アクタス」で掲載された時の挿絵は、別の方が描かれていましたが、書籍では、三田さんご本人が挿絵も描いています。



三田さん挿絵表紙

展示では本棚、ドレッサーをはじめ、小さい頃から近くに置いていたアンティークドール「メリーちゃん」やお手製の木目込み人形「光の君」など三田さんの愛用の品をお借りし、展示しました。

また最新の作品『執着駅まで』を含む二十冊の小説、三冊の『和歌集』、

全二十三作品を紹介してパネルと共に、プロフィールを掲示しました。



三田さん直筆の原稿・挿絵

講演会

「小説と私と手取川」と題した講演会では、ご本名の克枝という名前は、昭和十二年に掲載された小説「愛染かつら」のヒロイン高石かつ枝の名前からとられたことや、お母様のお話でよく口ずさまれた「青山脈」、「みどりの丘」などを美しい歌声で披露されました。

はじめて書いたお話「可哀想なピーコちゃん」が、小学校の校内放送で流されたこと、旦那様のお話など笑いが絶えない楽しいお話して

した。

中でも自分が小説の中に描いた女性が、手取川に入る場面を描くために自分も手取川に入った体験をお話ししていただき、小説家とは小説を描くためにそこまでされるのかと会場の皆さんが驚いていました。

最後に、三田さんが作詞した曲をミュージックセラピスト角谷晋平さんの演奏で生徒さん達と三田さんご自身も一緒に歌を披露され、あつという間の一時間でした。



「小説と私と手取川」講演会の様子

呉竹文庫では小説「地上」で一躍大正時代のベストセラー作家に駆け上がった島田清次郎の小説、雑誌の

展示を行いました。

島田清次郎とは

島田清次郎は女性問題でスキヤンダルを起こした後、巢鴨の精神病院で亡くなったことで今では忘れられた作家となっています。昭和三十三年に金沢で撮影された大映映画「地上」が上映されるまで地元美川でもほとんど取り上げられることのない人となっていました。

島田清次郎の父が早くに亡くなり、その後、父方の祖母も清次郎が五歳の時に亡くなりました。それ以後、美川から離れ、金沢で生活したので、島田清次郎に関する資料は美川にはほとんど残っていません。

島田清次郎と「地上」

自伝的小説『地上』の作者である島田清次郎が、貧しさの中、報われない世の中でもがく主人公大河平一郎と同一視され、二十歳の若さで、

多くの若者の人気者になりました。欧米に渡り日本人で最初の国際ペン倶楽部の会員にもなりました。

しかし、傲慢な態度などで次第に相手にされなくなり、追い詰められた清次郎は、ファンの令嬢と夜遅くに一緒にいた所を不審に思った警察に拘束されました。そのことが、大きな事件として世間に広がります。

出版社から相手にされず、原稿も手元に返され、挙動不審な行動が多くなり、巢鴨の精神病院に入院。そのまま昭和五年に三十一歳で亡くなりました。

「島田清次郎とその時代」展

島田清次郎の作品だけではなく活躍した大正時代の雑誌も展示しました。新聞で「地上」を推薦した生田長江の記事や、島田清次郎がアメリカから帰国した時の記事のコピーと共にプロフィールなどを展示しました。

島田清次郎の著作をはじめ作品が掲載されている雑誌では表紙や目次、

作品の一部をご覧いただきました。紹介されている絵や作家などを見ていただけで時代の雰囲気を感じられます。

東京や関西方面から、島田清次郎のファンだと若い女性のご来館者が何人もいました。中にはお墓参りをされた方もいて驚きました。

(石川ルーツ交流館 早松)



雑誌「中学世界」大正10年6月号



島田清次郎の著作などの展示の様子

松任中川一政記念美術館 春季テーマ展
「中川一政の薔薇」
 「明日への眼差し」

令和6年2月27日(火)

～5月26日(日)



中川一政「薔薇」1989年

令和六年一月の能登半島地震は甚大な被害を生みました。中川一政も大正十二年の関東大震災を経験した一人ですが、その後も常に明日を見つめ、一步一步確かな歩みを重ねました。昨日より今日、今日より明日の気概で新たな作品を生み出し続け、九十七年の生涯を現役で全うしました。こうした生き様は、今の困難な時代を生きる私たちに、前を向いて歩んでいく勇気を与えてくれる

かもしれません。本展では、こうした画家の姿勢を作品や言葉をとおし紹介します。

千代女の里俳句館 館蔵品展
「千代女をとりまく人々」

令和6年3月30日(土)

～5月19日(日)

加賀松任の表具屋の娘だった千代女が江戸時代を代表する女流俳人となった背景の一つとして、各務支考や中川乙由など、全国的に有名な蕉門の俳人から評価され、教えを受けたことが挙げられます。また、加賀俳壇においては、多くの門弟を抱えた和田希因や、前田土佐守家とも親交がある河合見風、女流俳人の紫仙女や珈涼らと盛んに交流しました。本展では、千代女と交流のあった俳人の俳諧作品や関連資料を展示し、その人物像や千代女とのエピソードについて紹介します。

石川ルーツ交流館
第19回「篠笛コンサート」

令和6年4月21日(日)

午後2時～

篠笛奏者八木繁さんと粹音会による日本の懐かしい名曲を篠笛で演奏いたします。

鑑賞は無料ですのでお誘いあわせご来館ください。

白山市立博物館 企画展
「街道をめぐる」
 「湊廻り往来と北国街道」

令和6年5月17日(金)

～7月7日(日)

白山市内には北国街道(上街道)がとおり、街道には多くの人々が行き交い、松任や柏野等の宿場では宿継が行われ、周辺の村々からはたくさんのお土産が集まり賑わいを見せていました。巡見上使や大名の通過のときなどは宿場に多くの馬が集められ、輸送等の対応にあたりました。

石川ルーツ交流館 企画展
「紙芝居で知るおかえり祭り」展

令和6年4月26日(金)

～5月19日(日)

美川おはなし会が製作した「おかえり祭り」の紙芝居の原画を展示いたします。

石川ルーツ交流館
**「紙芝居で
 おかえり祭りを楽しむ」会**

令和6年5月11日(土)

午後2時～

美川のおはなし会の皆様による紙芝居の実演とボランティアガイド美

川おかえり会によるおかえり祭りをより楽しむためのポイントを教えてもらいます。

石川ルーツ交流館

「美川自然人クラフ

三十年の歩み」展（仮称）

令和6年6月15日（土）

～7月21日（日）

県の絶滅危惧種「トミヨ」の保護や子供達が川に住む魚・昆虫などに触れられる観察会などを開催してきた三十年の歩みを紹介します。

白山市立博物館 企画展

「石川中央都市圏歴史資料展

江戸時代編」

令和6年7月19日（金）

～8月25日（日）

石川中央都市圏4市2町（金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町）が共同で開催する歴史資料展の巡回展です。

各市町の江戸時代の資料を厳選し、展示します。

白山恐竜パーク白峰

「化石発掘体験」



白山恐竜パーク白峰では、化石発見広場で実際に化石の発掘体験ができます。体験に必要なハンマー・ゴーグル・軍手は貸し出していますので、お気軽にご参加ください。なお化石発見広場のみのご利用も可能ですが、

お得な入館とのセット料金もございます。

入館料／

大人五二〇円、小中高生二〇〇円

化石発見広場利用料／

大人五五〇円、小中高生三〇〇円

セット料金（入館＋化石発見広場）／

大人八五〇円、小中高生四〇〇円

千代女の里俳句館 企画展

「俳句と写真展 ―ときめき―」

令和6年6月8日（土）

～8月4日（日）

写真と俳句を組み合わせた作品は、「俳写」「フォト俳句」などと呼ばれ、近年愛好家が増えています。本展では、白山市俳句協会会員や少年少女俳句塾の子どもたちの俳写作品を展示します。

（表紙写真）

「白山市立博物館」

「紙本 白山加賀禪定道図（部分）」

（白山市指定文化財）

「千代女の里俳句館」

「展示風景」

「松任中川一政記念美術館」

「展示風景」

「石川ルーツ交流館」

「三田薫子掲載雑誌 展示風景」

「呉竹文庫」

「展示風景」

「鳥越一向一揆歴史館」

「絵本 石山軍記（石川県立図書館蔵） 展示風景」

「白山恐竜パーク白峰」

「展示風景」

令和6年度 展示・行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
白山市立博物館 275-8922		企画展 「街道をめぐる一湊廻り 往来と北国街道」 5/17～7/7		企画展 「石川中央都市圏 歴史資料展 江戸時代編」 7/19～8/25				企画展 「写真で見る白山市 20年の歩み」 10/11～12/1			企画展 「かわってきた道具と わたしたちのくらし」 1/10～3/2	
◆講演会等	11/24日本刀鍛錬場見学会											
◆講座等	8/7夏休み工作教室 9/22伝統工芸教室						10/20ミニ新幹線乗車会		2/22-3/8-22 講座「古文書で見る白山市の歴史」			
千代女の里 俳句館 276-0819	立夏展示替			立秋展示替				立冬展示替		新年展示替	立春展示替	
館藏品展 「千代女を とりまく人々」 3/30～5/19		企画展 「俳句と写真展」 6/8～8/4		企画展 「千代女展」(仮称) 9/7～10/20	俳句協会 会員展 10/26～11/10		千代女・一茶 交流パネル展 12/7～12/22		企画展 「俳句の愉しみ展」 1/11～3/9			
春期俳句ポスト選句		夏期俳句ポスト選句		秋期俳句ポスト選句		冬期俳句ポスト選句	俳句ポストパネル展					
市民俳句教室 ①4/27	②6/1	③6/22	④7/27	⑤8/24	⑥11/30	⑦1/25	⑧2/22	⑨3/22				
少年少女俳句塾 ①5/11	②6/8	③7/13	④8/10	⑤11/9	⑥12/14	⑦1/11	⑧2/8	⑨3/8				
松任中川一政 記念美術館 275-7532	春季テーマ展 「中川一政の薔薇 一明白への眼差し」 2/27～5/26	夏季テーマ展 「中川一政の向日葵 一フォルムとムーヴマン」 5/28～9/1	臨時休館	秋季テーマ展 「中川一政 書と陶芸の世界 一画家の余技を超えて」 9/7～11/24	冬季テーマ展 「私が選ぶこの1点！ 中川一政推し作品展」 11/26～3/30							
美術館講座「中川一政文集を読む」	①6/15	②8/17	③10/19	④12/21	⑤2/15							
石川ルーツ 交流館 278-7111		「美川自然人 クラブ 30年の歩み」展 (仮称) 6/15～7/21		企画展 「北前船の道具」 (仮称) 10/14～11/26								
4/21篠笛コンサート	5/11「紙芝居でおかえり祭りを楽しむ」会	7月17日 ヨシ笛コンサート	7月下旬 ペットボトルでグライダーを作ろう 7月下旬 ペットボトルでペンケースを作ろう									
呉竹文庫 278-6252	能登半島地震のため、当分の間、臨時休館いたします。											
松任 ふるさと館 276-5614		7/7七夕茶会		9/13月見コンサート	9/13-14月見夜灯	9/14月見茶会					3/2 お雛様茶会	
											雛人形展示 2/8～3/9	
鳥越一向一揆 歴史館 254-8020			企画展 「一向一揆と鉄砲」 「文字瓦」(仮称) 7/13～9/16	企画展示 「石川中央都市圏 歴史資料展 江戸時代編」 9/20～10/13								
			7/20～8/31夏休みこども企画「クイズ」(鳥越一向一揆)	◆歴史セミナー								
白山恐竜 パーク白峰 259-2724	※全館閉鎖中	当施設では、常時予約なしで化石発掘体験が楽しめます									※11月下旬～4月下旬 冬期間閉鎖	
		5月下旬 若葉まつり恐竜パーク見学ツアー							11月上旬 温泉まつり恐竜パーク見学ツアー			

※各館のイベント等は白山ミュージアムポータルサイト <http://www.hakusan-museum.jp/> で紹介しています。日程等が変更になる場合があります。詳細については各館までお問い合わせください。

白山ミュージアム